

第8回APCTP日本委員会会合議事録

日時: 2010年12月28日(火) 午前10時より午後12時18分まで

場所: 理化学研究所(和光)研究本館4階 435号室

出席者: 菅原寛孝(委員長、日本学術振興会)、横山順一(東大)、岡真(東工大)、北澤良久(KEK)、保坂淳(阪大RCNP)、古崎昭(理研)、藤川和男(日大)、河本昇(北大)

オブザーバー: 中務孝(理研)、橋本幸士(理研)、青木真理(理研)

事務局: 多田司(理研)

欠席連絡者: 二宮正夫(岡山光量子研)、永長直人(東大)、川合光(京大・理研)、九後太一(基研)、矢崎紘一(理研)¹

議事次第:

承認:

1, 前回議事録承認

2010年1月6日に開催された第7回APCTP日本委員会の議事録を承認した。

報告:

1, 前回会合で議論できなかった点をメールでの持ち回りで審議した結果が多田より説明された。その内容に関連して、河本委員よりFulde氏との会話に基づいたAPCTPに出資するMax Planck協会の意図について説明があった。ドイツでは基礎科学分野へのODA的な考えで人材を集める戦略があり、APCTPを通じて加盟している東アジアの13カ国とのチャンネルができることを高く評価していることなどが紹介された。

2, 2011年1月1日からのGeneral Councilメンバーの選出依頼を受け、メールによる持ち回り審議の結果、以下の候補者をGeneral Council議長のOu-yang教授に推薦したことが報告され、確認された。

APCTP General Council メンバー推薦候補者

河本昇(北海道大学) <再任

¹事務局注) 今回の会合の通知を上記出席者および欠席連絡者の他に、下記の各委員に送りました: 佐藤勝彦(自然科学研究機構)、安藤恒也(東工大)、小林誠(KEK)、益川敏英(京都産業大)、上田和夫(東大物性研)、赤石義紀(理研)

古崎昭(理化学研究所) <永長委員後任

多田司(理化学研究所) <川合委員後任

3. 藤川委員より、2010年4月1日～3日に行われたBoard of Trusteesおよび関連した国際協力に関するSymposiumについて報告された。

Symposiumでは、APCTPの現状の評価と将来の目指すべき「形」に関して、韓国内の調査機関による評価に基づく相当詳しい報告があり、日本関係では基研がひとつの目標に上げられていたことなどが紹介された。Board of Trusteesでは、人事面でFulde氏が所長に再任され、Swan Kim氏がExecutive Directorに再指名されたこと、Board of TrusteesのChairmanとしてPostechのNamkung氏が選出されたことが報告された。その他理事会で報告されたJunior Research Group(JRG)の人事(理研のポスドクが一名採用された)や予算(年間3億円弱)の状況が紹介された。またMax Planck協会がPohangにかなり大規模な研究開発拠点を作るという情報について質問応答があった。

4. General Councilについて、欠席の永長委員からの書面による報告が多田から紹介された。続いて河本委員からSymposiumとGeneral Councilの報告が行われた。

Symposiumでは日本を代表して、前回会合の議論を踏まえた短いスピーチを行ったことが報告された。またJRGについては高く評価されているが、その分野設定と研究者の選定において外部意見を取り入れた国際的な枠組みが必要と感じているとコメントされた。General CouncilではSingaporeのmembershipに関係した問題が議論されたことおよび今後の見通しが報告された。国際的な枠組みに関して質問があり、関連して過去の経緯の紹介、沖縄の大学院大学との比較やその他の意見交換が委員の間で行われた。韓国側からより多く出資をして欲しいと言われている現在は、日本にとっても進出できる好機であるとの認識も一部の委員から示された。

5. APCTPの現状がAPCTPよりの資料に基づいて多田より報告された。

議事:

1. 日本委員会の新メンバーとして、理研仁科センターの中務孝氏、橋本幸士氏の2名が提案され、了承された。また東大物性研の押川正毅氏の名前が物性分野の新しい委員の候補として古崎委員より挙げられ、委員として加わって頂くよう交渉することが決められた。

2. 現在メンバーシップフィーを負担している理研仁科センターとAPCTPとの協定が2011年11月に期限切れを迎える事情、および仁科センターの状況が多田より報告された。引き続き藤川委員より、日本物理学会の永宮会長を仲介とした仁科センターの延與センター長との話し合いが紹介された。

特に延與センター長からは、川合現主任研究員の後任の次期主任研究員がAPCTPとの交流に積極的であり、日本委員会が理研主体の委員会に移行するという条件が満たされれば、仁科センターの事業としてより積極的に関与していくことを検討する用意があると言われたことが紹介され、これについて議論された。結果として、日本委員会のありかた、国内の共同利用研究機関との関連および将来的な仁科センターとAPCTPの関係については、次期主任研究員が決まった後、主任研究員の意向を確認した上で協定期限切れの2011年11月までにもう一度議論することとなった。

3. これまで仁科センターでAPCTPを担当していた宮本寛氏が他部署へ配置換えとなったため、宮本氏の後任のAuditorとして、事務を引き継いだ青木真理氏を推薦することが提案され、了承された。

4. 多田より日本委員会のホームページを作成する提案が出され、承認された。

5. 多田より議事録を日本物理学会あてに報告することが提案され、承認された。

その他：

日本物理学会のAAPPS委員をつとめる横山委員からAPCTPがAAPPSのBulletin等への財政的な補助をすることについて意見を求める発言があり、委員の間で意見の交換が行われた。

以上